

目次

ページ

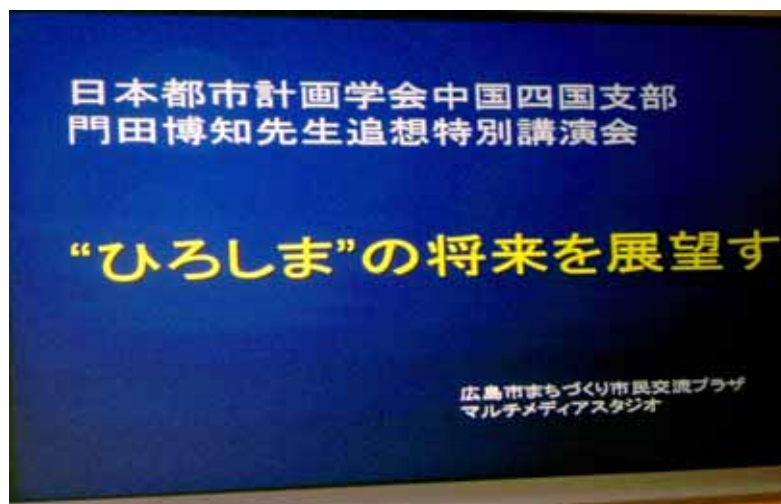
門田博知先生追想特別講演会	・ コーディネーター：杉恵 頼寧氏 ・ パネリスト：櫛本 功氏、石丸 紀興氏、菅原 信二氏、畠山 和憲氏、池田 憲昭氏、村井 浩二氏	1
景観フォーラム	・ 経過報告：塚本 俊明氏、基調講演：西村 幸夫氏	4
第4回都市計画研究会	・ テーマ：LRTを活かしたまちづくり～最近の事例～ ・ 発表者：杉恵 頼寧氏、進行役：奥村 誠氏	5
ひろしままちづくり井戸端トーク2006		7
会員紹介	・ 高井 広行氏、渡辺 公次郎氏	9
今後の活動計画		10
編集後記		10

**「門田博知先生追想特別講演会」『ひろしま』の将来を展望する」パート2**

平成15年2月亡くなられた門田博知先生を追想する特別講演会が、昨年未の平成17年12月17日(土)に開催されたことと基調講演の内容を前回のニュースレターで報告いたしました。今回のニュースレターでは特別講演会の後半に行われましたパネルディスカッションについて報告致します。前回の記事と重複しますが、講演会の構成は以下のとおりです。

**【講演会の構成】**

日時：平成17年12月17日(土)14:00～17:30  
場所：広島市まちづくり市民交流プラザ マルチメディアスタジオ  
基調講演 「広島都市圏に必要なことを探る」  
講師 櫛本 功((社)中国地方総合研究センター理事長)  
パネルディスカッション「『ひろしま』の将来を展望する」  
コーディネーター  
杉恵 頼寧(広島大学教授)  
パネリスト  
櫛本 功((社)中国地方総合研究センター理事長)  
石丸 紀興(国際大学教授)  
菅原 信二(国土交通省中国地方整備局企画部長)  
畠山 和憲(広島県企業局次長)  
池田 憲昭(広島市都市計画局都市計画担当部長)  
村井 浩二(中国経済連合会常務理事)  
(敬称略 順不同)



## 1. 基調講演「広島都市圏に必要なことを探る」(前回報告)

樺本先生の基調講演は、広島をよくした男三人、悪くした男五人というフレーズで始まりました。そして、門田先生は広島をよくした男三人の一人であり、門田先生が委員長、樺本先生が副委員長という委員会を数多く経験したことを冒頭に懐かしく語られました。内容は、今最もホットな話題である道州制の州都の議論に絡め、樺本先生が委員長を務められた広島都市圏等中枢都市比較検討委員会(国土交通省中国地方整備局)での討議・議論をもとに「広島都市圏に必要なことを探る - 札幌・仙台・広島・福岡、4つの中枢都市圏の比較から - 」と題して、主に広島都市圏と仙台都市圏のサービス業集積の比較・分析から「広島都市圏に必要なこと」を熱く、鋭く、判りやすく語られました。

## 2. パネルディスカッション「『ひろしま』の将来を展望する」(今回の支部ニュースで報告)

パネルディスカッションに関しては、杉恵先生をコーディネーターとして広島に関わりが深く、亡くなられた門田先生とご縁のある6名のパネリストにより、以下の内容で進められました。

### 【パネルディスカッションの進め方】

発言1：パネリスト紹介+進め方の説明

発言2：広島のこれからのあり方(展望)

発言3：具体的なテーマ

- (1) 社会基盤整備のあり方
- (2) 中心市街地・都心部の活性化
- (3) コンパクトな、持続可能な、公共交通指向型(TOD)、環境負荷の小さい都市づくり

発言4：まとめ

ここにおいても、基調講演に引き続き明日の広島についての熱い期待と克服すべき課題が、杉恵先生のコーディネートにより真剣に議論されました。以下にパネリストの方々のご発言の要旨を報告致します。

### 【樺本 功先生】

基調講演の中で述べられた広島市中心部へのアクセス向上(尾道松江線の三刀屋~三次間の早急な高規格道路整備や安芸府中・府中仁保道路の未整備区間や広島南道路、西広島バイパス東部線等の完全完成)を急ぐことを力説されました。都市の活性化では、第3次産業なかでもサービス業(文化の担い手、学士・修士の資格を持った人)の育成・強化が必要であり、専修学校の修道大学や広島市立大学での出前講座や広島大学の市内でのサテライト等具体的提案がありました。また、少し前にはGDPの10%が建設投資であったが今は5%と落ち込んでいるが、道州制・市町村合併の意味をよく理解し、将来の発展のために今投資すべきであり、苦しくても投資を行い乗り切る覚悟が広島には必要であると熱く語られました。

### 【石丸 紀興先生】

先生は、広島への地における長年のご経験(1966年から広島大学、2003年から広島国際大学、学会設立にご尽力され2002年には支部長)から、克服すべき課題等をどう実行展開してゆくかが重要だという基本認識を示され、次に示す内容で重要なポイントを述べられました。また、郵政改革や道州制にも触れられました。

- ・どの主体(組織・リーダー・スタッフ・住民)が危機感を!?  
...広島県は人口減少時代にどのような県土としたいのか、広島市は憲法9条の改正をどう考えるか等
- ・広島の特異性と普遍性を生かせるか
- ・新たに出現する課題とその取り組み(コベントリーでの実践に学ぶべき)
  - 中心市街地活性化
  - サステナブルな対応
  - エコロジカルな対応
  - ユニバーサル・デザイン
  - コンパクトシティ

### 【菅原 信二氏】

菅原氏は、整備局企画部長として樺本先生の基調講演のベースとなったレポートの発刊に携わることができたことを感慨深く述べられ、樺本先生の意見に賛同し尾道松江線の三刀屋~三次間の早急な高規格道路整備の必要性を語られました。社会基盤の整備はなにも広島市民だけのものではなく、都市高速が広域道路ネットワークと結びつき、より広域化されることにより広島のポテンシャルが向上することを、若い人のリムジンバス利用等を例にあげ力説されました。なお、以下に示すテーマで広島の将来を語られています。

- ・広島の果たしてきた役割の確認  
城下町...毛利築城~江戸期  
軍都...明治維新後~終戦まで、日清戦争時は首都  
終戦後...平和記念都市
- ・広島は広島県、中国地方の中心都市としての役割を意識したまちづくりが必要(地方分権の自己責任、自己決定)

【畠山 和憲氏】

畠山氏は広島県での長く豊富なまちづくり経験をもとに、周辺都市(廿日市、東広島、呉)の成長が広島市の活性化に必要という議論を次に示す内容で展開されました。

- ・戦後人口集中地区が急速に拡大し、広島都市圏 PT 調査の結果にあるように都市交通は自動車利用が主体となってきた。
- ・廿日市、東広島、呉も大きく捉えると広島の都市圏でありこれらの都市の成長と活性化が必要である。
- ・廿日市のシビックセンター、東広島西条駅前、呉駅南の土地区画整理事業など着実にまちづくりは進んでいる。
- ・学園都市東広島への LRT の導入や、宇品国際ターミナルを睨んだ広島大学跡地でのパークアンドライドなど検討すべき課題も多くある。

【池田 憲昭氏】

池田氏は広島市の都市計画行政に実際に携わられている立場から、いま広島市が重点的に取り組んでいる施策を中心に次に示す内容の発言がありました。

- ・HP に公開されている広島市都市計画マスタープランに示すように、都心居住の促進と広島市の川を生かす水の都整備構想に取り組んでいる。
- ・コンパクトシティへの転換も意識しており美しいコンパクトを目指したい。
- ・活性化施策として、ビジター増加を目指した観光振興を企画している。暴力団、暴走族といった旧来のイメージの払拭が必要である。

【村井 浩二氏】

村井氏は、他のパネリストの方とは違った経済界の視点から広島のこれからのあり方に関して以下に示すようなユニークな考え方を述べられました。

- ・賢者は歴史に学ぶというフレーズにあるように昭和 52 年の第 3 次全国総合開発計画でふれられた札仙広福や、平成元年に提唱されたグレーター広島等その後の経過にまなぶべきことは多い。
- ・都市の品性が問われる時代であり、広島は「国際化」、「文化」機能を高めた高度な都市機能集積が必要である。
- ・道州制は意外と早くくると考えられ、都市基盤整備の集中と選択が必要である。広島空港・広島港ともに中国地方のハブ機能強化が重要。
- ・都市型の成長産業(高度なサービス業)の育成・展開が必要で、広大跡地や新幹線北口の高度利用が重要な鍵となる。

最後にコーディネーターの杉恵先生が、皆さんの意見は重要であり、時間がかかっても取り組まないといけないと総括され、そのためにも社会に貢献する学会でありたいと思いを述べられました。

(文責 安永洋一郎)



パネルディスカッション(菅原部長、畠山次長、池田部長、村井理事)



パネルディスカッション(杉恵先生、樺本先生、石丸先生)

## 景観フォーラム

日時:平成18年1月29日(日) 13:00~16:00

場所:広島市まちづくり市民交流プラザ

プログラム:

第1部 経過報告(塚本俊明氏:企画・研究委員会委員)

第2部 基調講演「テーマ:景観法の意義とこれから」  
西村幸夫氏(東京大学大学院 教授)

第3部 ディスカッション

<第1部 経過報告、塚本俊明氏:企画・研究委員会委員>  
企画・研究委員会では、平成17年度都市計画研究会のテーマとして「景観」を掲げ、4回の研究会開催と一の坂川の現地見学会を実施し、様々な見地からの景観問題を議論してきた。今回の景観フォーラムは、今年度の取組みを総括し、基調講演とディスカッションを行うものである。

平成17年度 都市計画研究会の取組み経過

開催日	テーマ	講演者
H17.2.5 第3回(H16)	景観法について	陶山幸夫氏/国土交通省
H17.9.17 第1回	広島市の景観について話してみませんか?	三家本真二氏/国土交通省 釜谷幸志氏/広島市
H17.10.1 第2回	中国地方における景観づくりの取組みと景観法~岡山市の取組み	塚本俊明氏/広島大学 阿部宏史氏/岡山大学 長谷川眞智子氏/エム・グレイ
H17.10.2 9 第3回	尾道市の斜面市街地の景観特性と課題	小田靖之氏/株式会社環境研究所
	広島港色彩計画	藤岡義久氏/中電技術(株)九州外機
	街並み形成の取組み	山口陽氏/国土交通省
H17.11.2 6 見学会	まち並みフォーラムについて	山下和也(株)地域計画工房
	行政と住民との協働による景観形成~一の坂川周辺地域・山口市	原田正彦氏/山口県 小山哲彦氏/小山建築設計事務所 参加者16名

<第2部 基調講演、西村幸夫氏(東京大学大学院)>

「景観法のこれから」と題して、景観まちづくりが今後必要とされ、どのようにまちづくりに活かしていくのかについて講演をいただいた。



基調講演の概要は以下のとおりである。

### 1. 景観法施行後の現状

景観法施行から1年半が経過し景観行政団体は187となったが、景観整備機構は5法人と少なく、景観計画も近江八幡市と小田原市の2市に留まっている。また景観協議会は近江八幡市と各務原市と犬山市の3協議会である。国土交通省では44の直轄事業に対して景観アセスメントを試行的に導入しているが、環境アセスメントとの調整が必要である。例えば環境アセスメントでは景観は自然環境の保全が前提となっていることが課題であり、環境省と国土交通省の調整が求められる。既に、官庁営繕・航路標識・都市整備・道路・住宅・港湾についての景観形成ガイドラインが制定済みで、河川に関しては策定中である。

### 2. いまなぜ景観か

景観問題は、1906年東京市条例案を検討する中で美観の問題があげられたことに始まる。1925年頃には都市美の問題が東京の都市景観づくりの中で議論された。1980年以降、景観問題が重要視されるようになった。近年では2002年、2003年に発生した法善寺横町の火災による再建に市民30万人からの署名を得るなど、地域による景観づくりの取組みが始まっている。また国立市のマンションのように景観問題に関連して裁判で争われていることも多くなった。このように開発に対するルールの必要性が高まり、景観法が担う役割は今後さらに高まることが予想される。

景観法は基本的な理念を謳ったものであり、地域の諸条件に応じて周辺環境と調和させていくことが重要である。そのため基準は一つである必要はなく、地方公共団体の責務で上乗せ、横だしができるようになったことも重要である。景観権を使える環境になったことから、今後は積極的にこの仕組みを活用していく必要がある。

<第3部 ディスカッション>

基調講演に続いて、フロアとの意見交換を行った。

Q:住民が日常生活を営む中で景観地区を制定していく必要があるが、景観法の使い方、市民への広報方法は、

A:土地利用を規制することは、土地の資産価値を高め、地域全体のイメージアップに貢献し、住環境に景観が役立っていることを示すべきである。日本では制約条件がマイナスイメージに繋がる風潮があったが、これからは景観が資産価値を高めるように進めることが必要である。

Q:平和大通りなどは市民にも景観計画の必要性の理解を得やすいが、これまで景観を議論していない地区について、いかに住民の理解を得るかが課題である。

A:東京世田谷の風景づくり条例のように、住民が景観資産を抽出し、専門家が支援しながら行政と検討した取組み事例がある。小さな合意から始まる運動をボトムアップで積み上げていくことが大切である。

Q:少子高齢化を見据えて、どうすれば貴重な景観を残していけるか。

A:景観法でできないことは空地についてである。オープンスペースの緑化の割合を示すなど自然生態系的に意味のある緑を作っていくことが必要である。景観を残していく手立てとして税制上の優遇制度ができており、活用すべきである。また指定管理者制度などの仕組みを住民が理解していくことも必要である。

Q:行政と住民が調和するための方法は、

A:協議会等でオープンに議論する必要がある。透明性と意見照会の仕組みが重要である。

住民が主体となった景観づくりがまちの景観を創り育む原動力となる。景観法をまちづくりに活用していくためには、住民とのコラボレーションが重要といえるのであろう。

(文責 周藤浩司)

## 「第4回都市計画研究会」

日本都市計画学会中国四国支部では、企画・研究委員会の主導で、毎年度一つのテーマに関する研究会・見学会が3~4回のシリーズで開催されます。来年度は、「LRTを活かしたまちづくり」をテーマとして取り上げる予定となっています。平成17年度最後の研究会において、来年度の予告編の意味も込めて、日本都市計画学会中国四国支部長である広島大学杉恵先生みずから報告をされ、それをもとに活発な議論が行われました。研究会への参加者は広島LRT研究会、広島電鉄、マツダ、大学関係者、コンサルタントなどから約40名でした。

### 【研究会の構成】

日時：平成18年2月4日(土)14:00~16:00

場所：広島大学千田キャンパス205号

テーマ：欧米におけるLRTを活かしたまちづくり~最近の事例~

報告：広島大学大学院工学研究科 杉恵 頼寧教授  
(進行役：広島大学大学院工学研究科 奥村 誠助教授)

## 1. 基調報告骨子

基調報告者の杉恵先生から「欧米におけるLRTを活かしたまちづくり(最近の事例)」と題して、LRTおよび周辺の街並みの写真やネットワーク図、またご自身の旅行体験等にもとづき以下の内容を骨子とする報告が行われました。

### (1)なぜ、路面電車(LRT)なのか？

欧米でのLRT導入推進の理由は大きく4点に整理できる。

自動車利用者の転換による道路混雑の緩和効果、乗客1人当りの利用空間が小さくコンパクト。

CO2を排出しない、高いエネルギー効率等、環境問題への対応が可能。

路面を走るため、乗降が容易、上下移動が不要であるためバリアフリー化の要請に適應。

市街地の中を走行するため、中心市街地の活性化に寄与する。

### (2)海外で新設されたLRT

フランスでは地方選挙でLRT導入が選挙公約となり導入都市が増えている。(1996年、2002年、来る2008年)

カルガリーのLRT(1981)では最初に都心部がトランジットモール化された。都心部利用は無料でスカイウォークに連絡している。

グルノーブルのLRT(1987)では低床式の電車が導入され、トランジットモールでオープンカフェが開設されている。

日本でも有名なストラスプールのLRT(1994)は、斬新なデザイン車両で、対抗馬であった専用軌道を走る新交通システムに勝った経緯がある。一部の路線は地下も走行している。都心部には環状道路が整備され、LRTが走行する都心部には自動車の乗り入れ禁止がセットで行われている。

アメリカの住みやすい都市といわれているポートランドのLRT(1986)はコンパクトシティ政策と連携しており、都心部の利用は無料化されている。バスに対するトランジットモールも設置されている

(3)トランジット・モール導入による中心市街地の活性化  
ミュンヘンNeueHauser通りでは1960年代後半からモール化が実行され中心市街地活性化に寄与している。城壁周回道路を高速道路化し、内部への自動車乗り入れを面的に規制している。

コペンハーゲンのストロイエ通りでは歩行空間の整備で売上げが増加している。通りでは自転車との共存が図られている。

アントワープや他の都市では1980年代から90年代にかけて路面電車の地下への乗り入れが進み、自動車交通との分離、歩行者の利便性向上が図られている。

### (4)他の交通機関との連携

フライブルグでは、LRTとバスが同じプラットホーム左右で発着し、DB(国有鉄道)にはそこから立体的に乗り継ぎできる仕組みにしており、交通結節点での利用者の利便性を高めている。

カールスルーエではDB(国有鉄道)への乗入れ、トロントでは地下鉄駅上層への乗入れが行われ、交通結節点での乗り継ぎが非常にスムーズとなっている。

### (5)観光資源としての路面電車

ニューオリンズでは世界で最も古い路面電車を観光客が利用できるようにしている。

クライストチャーチ、イスタンブールにおいても観光客が利用主体の路面電車が運行されている。

## 2. 質疑応答

基調報告に対して事業性、実現性などの観点から質疑があり、具体的には次に示すような内容でした。

### 採算性

欧米のLRTを含む公共交通はその役割から赤字が当たり前で、資本の全額、運行費の半額までが公的補助となっている例が多い。

### 事業主体

ドイツでは運輸連合を形成しているが、最終的に行政が責任を持つ形である。都市ガスなどの公営企業からの内部補助が活かされている例もある。

LRT 成立の都市規模

圏域をどう捉えるかによるが、行政区域人口10万人以上が多い。

LRT とバスの共通区間の仕組み

特別な仕掛けはなく、路面電車の電停に路線バスが発着するようなもの。

ロードプライシングやパークアンドライド駐車場の収入をLRT 運営に充てる仕組みの存在。

今後の方向としてありうるが、地方選挙等で争点となることが怖く、実施できないのでは。東京で実施されれば地方に広がる可能性もある。

自動車利用者からの負担金は難しく、現実的でない。実際にP & R 駐車場を有料化すると誰も使ってくれない。ポートランドのMAXの運営では65%は事業所の固定資産税が充当されている。

広島のみちづくりにおけるLRTの活かし方

既成路線をトランジットモール化したくても、商店街や警察の抵抗が強く、路線ネットワークを拡張して利便性を高めることが先決である。新設路線の一部でトランジットモール化の可能性はある。

- 2006.7 広島でのLRT 活用の提案(広電・広島市?)
- 2006.8 都市の装置としてのLRT(市民・建築関係大学・コンサル)
- 2006.10 LRT 導入の技術的課題と研究成果(土木関係大学・コンサル?)
- 2006.11 LRT とまちづくり・見学会(四国)
- 2007.1 シンポジウム

以上

(文責 安永洋一郎)



会場で基調報告をされる広島大学杉恵先生

2. LRTに関する今後の研究会の着眼点

来年度のシリーズ研究会の着眼点に関して、以下に示すような貴重な意見が述べられました。

どういう条件であればLRT がうまくいくのか、LRT の効果をどのように評価するのかといった「条件の整理と評価方法の確立」がキーになると考えられる。(広島大学 藤原先生)

公共交通のコストを商業サイドから出してもらおう仕組みとして、伊予鉄道のICカードを用いた取組みに注目している。従前の鉄道利用者が年間約2,400万人、一日当たり4万人程度であるのに、ICカードは5万枚も発行されており、一日当たり5万人の利用可能性が存在している。(愛媛大学 柏谷先生)

欧米で盛んにLRTの導入が進められているのを見ると、長期的にはLRTを公共交通に取り入れた方が有利であると判断される。LRT導入の有利さを評価する方法が既に存在しているのであれば、それらを学習すれば良いのではないか。(松波計画事務所 松波氏)

上記の意見に対して交通政策の重点をどこに置くのかというスタンスは国や政党によって異なっており一概には言えない。(広島大学 杉恵先生)

上記の意見に対して交通政策推進者はそれぞれの立場でレポートを作成しており、それが受け入れられるかどうかは別問題。経済性のみでは公共交通は成り立たず、環境や福祉などの社会政策的な目的も持っている。ニューヨークでは公共交通施策は高所得者を利しているという報告さえある。(愛媛大学 柏谷先生)

最後に、当日の進行役の広島大学奥村先生から今後の研究会予定が発表されました。



真剣な議論が展開されている研究会の会場風景(広島大学千田キャンパス)



会場で発言される愛媛大学の柏谷先生

## ひろしままちづくり井戸端トーク2006

「ひろしままちづくり井戸端トーク2006」が、2月18日、広島市まちづくり市民交流プラザ6階マルチメディアスタジオで開催された。

「まちづくり井戸端トーク」は、様々な地域のそれぞれのもちづくり活動を「自分達でやるしかない...」と汗を流し駆け回っている方々にご紹介いただき、苦労話や自慢話に花を咲かせる事例報告会だ。

2004年に開催して以来、2回目となる今回は、(社)建設コンサルタンツ協会中国支部、(社)広島県建築士会広島支部、(財)広島市ひと・まちネットワークまちづくり市民交流プラザの三者が共同主催で、報告者も、広島市内だけでなく、県内や近県のまちづくり団体7団体から、活動事例が報告された。

来場者は98名と、立ち見が出るほどたくさんの方々が参加され、今後の自分の活動のヒントにしようと、熱心に耳を傾けていた。

### 【概要】

開催日：2006年2月18日(土)13:00~17:30

場所：広島市まちづくり市民交流プラザ マルチメディアスタジオ

### 【報告内容】

#### 「くまの高原からオアシスをつくろう！」

発表者：くまの高原ファーム(米蔵ぎやらりー三田屋)・伊藤まゆみ氏、梶山孝之氏

広島市中心部から車で30分に位置する、ベッドタウンでありながら自然の緑が残る熊野町で、昔からある米蔵や竹林などの個性を生かしつつ、荒廃地の活性化と生きがいの活性化を推進することを目的とする。「くまの高原ファーム」という私有地を、ぎやらりー三田屋が中心になって、ワークショップ棟を作ったり、竹林で竹炭を作ったり、竹林コンサートを開催したり、築150年以上の米倉をギャラリーとして使い「米倉ぎやらりー」を開催したり、地域の人と体験農業イベントをしたりしている。

#### 「二葉の里・花のプロムナード」

発表者：二葉山の里づくり隊・シイどんくらぶ、森川博代氏  
ひろしま八区覧会・八区物館の開催にちなみ、広島市の玄関口に位置する二葉山と二葉の里歴史の散歩道へ、来訪者を迎え、地域の方々にも地本の地域資源の再発見を働きかけるため、殺風景となっている道路用地の沿道に、地域の方を中心とした市民有志でコスモスを育てた。地域の人たちが自分たちでもまちづくりができるのだと気づいてくれたことが、一番良かったことだ。

#### 「文字からひろがるふれあい夢事業 - “ほんごう子ども図書館”からの発信 - 」

発表者：ほんごう子ども図書館事務局長・北辰賢二氏  
ほんごう子供図書館は、本郷出身の東大名誉教授大田堯氏が土地を寄付し、三原市本郷町が建設した図書館で、住民ボランティアが蔵書整備や運営をしている全国でも珍

しい公設民営の子ども図書館である。建物は、椅子も机もなく、ただカーペットが敷いているだけで、自然な仕種で本が読める。こどもの五感が養われるように、工夫もしている。開館以来、一貫して、子供と本、子供と自然の架け橋となるように、子供にも大人にも居心地の良い場所となるように心がけている。

#### 「魅力と誇りにみちた町づくり」

発表者：石州街道・出口地区まちづくり協議会・栗田澄子氏  
府中市出口町の石州街道・出口地区のまちづくり活動は、歴史を生かした、古いながらも温かみのある、みんなが住み続けられるまちづくりを目指している。弁柄格子を残しつつ中身を近代的な生活に対応した改造をする等の家並みの修景、回遊性を出すため、裏通りや川沿いなどを繋ぐ、細街路の避難所の設置、ほたるの川づくり、子供が自由に遊べるピオトープを生かした公園などのたまり場づくりなどを、住民主体の「達成感のある」活動の活性化により行っている。

#### 「“おやし活性化委員会”の汗と涙と男と女」

発表者：雑談法人おやかツ委員会・いくまさ鉄平氏  
おやし達を中心に、1999年の音楽喫茶ムシカ復元に端を発す。広島国際アニメーションフェスティバルを支援する「ラッピー友の会」事務局を努め、「ホワイトチェアプロジェクト&屋外上映会」を行い、横川レトロバスを復元し、可部の「か」と横川の「よこ」を取って「かよこ」の物語を展開し、「かよこの嫁入り祭」を展開したり、京都に乗り込んで日本最初にバスが走った「バスの日を譲ってください京都アピール」を行ったり、その他市民活動の下請け団として数多くの事業を陰日なたに行っている。「ため」はダメ。おやし自身が楽しむ事が一番！遊ぼうという気持ちが集め、それが結局はまちづくりになる。

#### 「鞆のまちづくり」

発表者：NPO法人鞆まちづくり工房・松居秀子氏  
歴史ある港町である福山市鞆町での歴史的文化・土木遺産を活かしたまちづくり。港の真ん中に鞆港埋め立て架橋計画が持ち上がり、賛否論争の中からNPO法人鞆まちづくり工房を設立した。2003年夏に排水権利者同意取得を断念するとして発表があるも、2003年秋に就任した現市長が権利者同意なくとも埋め立てを可能とし、事業を推し進めようとしているところである。

NPO活動としては、鞆の歴史文化土木遺産を活かしたまちづくりの為に、空家バンクを創設し、空家利活用事業を展開。民間財団アメリカンエクスプレス社から10万ドル、その他個人・団体から資金面での支援を受ける。地元建設会社が「鞆HeiwaArchitect5」を結成し、設計、施工を請け負う。車社会から取り残された港町の海からの交通を見直す港町ネットワーク事業を目指し、勉強会や交流会を行っている。民産官学が協働するシビルソサイエティを目指し、公益のために「自分たちで出来ることは自分たちでやる」とした自立的まちづくりを目指す。

### 「住む人が・使う人が創るまち」

発表者：うぶすな岡山」（NPO法人まちづくり推進機構岡山）・新谷雅之氏

岡山県のNPO法人まちづくり推進機構は、岡山県内各地のまちづくり活動を支援し、まちづくり活動の基盤づくりを目指す。建築士会をはじめ、様々な分野の専門家で構成されている。防災まちづくりワークショップ等、ワークショップを活用してまちづくりの施策や計画を作ったり、まちのユニバーサルデザイン化に向けた提案を行い、空家を生かした都市住民の田舎暮らしを目指し、調査を進め、地域通貨講習会を行い、まちづくりの人材育成を行い、プラットフォームとして「プラットほと」という拠点を作り、ボランティア登録、アンケート調査、車椅子の貸出等を行っている。

最後に、県建築士会広島支部まちづくり委員会の三島久範委員長がまとめとして、「『まち』全体を自分たちの『生活・文化』の場にしようとする動きが起きている。進めるためには、住民、企業、行政が自分たちのまちづくりに責任を持って関わりながら、協働事業を進めていくための仕組みとしての『プラットフォーム』が必要だ。広島ではこれまで10年かけて参加型のまちづくりを進めてきたが、これからの10年は、地域のプラットフォームを通じて広島の「生活・文化」を創り出していく期間となるだろう。」と会を締めくくった。

当日実施されたアンケートによれば、「良かった」と「まあまあ良かった」が、全体の94%と、高い評価を受けた。また、様々な事例と、いろいろなアイデアで、全て楽しく聞けて参考になった、このような機会は何度でも設けて情報収集したいといった感想が寄せられた。（文責：石丸、福馬）



#### 【感想】

井戸端トークは、2004年に開催して2度目となる。前は限られたメンバーで、伝聞での事例報告も多かったが、今回は県外を含めた活動をしている本人からの報告で、活動内容も実が伴ったものであり参考になった。アンケートから事例発表へのニーズも大きいことが分かった。今後は、いかにこの情報を自分のまちに応用できるかが必要とされると共に、今回知り合ったネットワークを活かしていきたい。（文責：福馬）

### トークのあとの井戸端バトル編

第1回に続き、恒例となった？トークのあとの懇親会の模様を報告します。今回はアカデミーな人々による「住民参加の意義」についての熱いバトルが交流会（懇親会）のメインイベントとなり、今回も法華クラブ10階にはホワイトボード、さらに模造紙・マーカーが準備されていました！

トークではスライドマラソンのため、質疑応答時間がまっただけでなかったため、各報告書が順に補足事項をコメントし、会場から質疑、そして応答という流れ。その様子は下の写真からお察しいたしましょう。そして想定内？外？だったかは別として、某女史から「子ども野外活動・昔の遊びについて、団塊の世代の皆さんに積極的にかかわってもらい、経験と技を孫の世代に伝授すべきだ」との発言から（これが起爆剤となり）、バトルが始まりました。子育ては親の責任だとする団塊代表N氏は親世代への説得（説教？）が放たれ、白熱した議論に及びました・・・

また、参加者同士のバトルだけでなく、まちづくり～まち育てが、社会のこれまでの枠組みや既成事実との戦いであり、自らの変革、工夫、地道な取り組みによって社会を（より良いものに変えていく）直向な自身との戦いであること、そして、楽しく続けていくための、方法や知恵等が紹介されました。おやかつの産業奨励館の話、鞆へスタジオ・ジブリの社員旅行を誘致、空家2棟改築した費用を宿泊代とした上、宮崎駿から町並みのスケッチをもらった話（実物を会場でお披露目！）・・・おもしろ話はつきませんでした。

市民の生活・暮らしの視点から、行政に頼らず、制度の壁に砕けず、力強く地域課題を解決する勇士の姿が、交流会では一段と輝いてました。

日時：平成18(2006)年2月18日(土) 18:00～21:00  
会場：法華クラブ10階 参加者：約40人



(文責 宮迫)



## 会員紹介1

高井広行(たかい ひろゆき)  
近畿大学工学部建築学科教授



1948年愛知県生まれ/大阪市立大学工学部土木工学科卒業/同博士課程修了/近畿大学工学部在職28年/日本都市計画学会中国四国支部企画委員会委員長、広島市都市計画審議会副会長、広島市開発審査会会長、広島市大規模小売り店舗立地協議会委員、東広島市都市計画審議会委員、東広島市福祉有償運送等運営協議会会長、東広島TMO計画策定委員会委員長、東広島市生涯学習推進協議会副委員長、熊野町福祉有償運送等運営協議会会長、中国地域都市防災研究会幹事、日本福祉のまちづくり学会第9回全国大会実行委員会副委員長他

### 研究室紹介

私の研究室では都市交通計画、都市防災計画、都市環境計画、地域計画、商業計画、まちづくり手法、都市計画論等の現在の課題について焦点を当て、魅力的な安全で・健康な・安心して住めるまちを作るための研究を行っております。土木系と建築系の計画分野の課題について研究を行っております。

### 今までの研究テーマ

社会変化と防災意識の変化/広島県下の高齢化の進捗と高齢者にやさしいまちづくり/高齢者のための交通手段の確保/神戸市における延焼シミュレーションの開発/広島主要都市(広島市・福山市・呉市・東広島市)の変遷と都市環境/西条駅前土地区画整理地区のまちづくりと商業計画/神戸市における地区防災計画支援システム/住宅地区における交通環境改善計画/東広島市における交通事故の変遷と安全な都市づくり/東広島駅前土地区画整理地区のまちづくりと商業計画/神戸市における震災被害予測システムの構築と都市計画への利用/東広島市都市情報支援システムの構築/GISを用いた交通事故防止対策支援システムの構築/CGを用いた西条駅前土地区画地区の設計と計画/規制緩和に基づくバス交通路線の評価と再構築/移動円滑化をイメージしたまちづくりに関する研究/CGを用いた酒蔵通り再生の設計と計画

### 雑感

趣味は旅行・ミュージカル観賞・コンピューター自作・映画鑑賞他。最近、健康のため山歩きを始めました。高校時代は山岳部に属し日本アルプスの山々を歩きましたが、今はそのような元気はありません。もっばら、近隣の500mほどの山を家内と一緒に歩いております。今年も暇を見つけてできるだけ多くの山(少しずつ高い山)に挑戦しようと思っております。

## 会員紹介2

渡辺公次郎  
徳島大学大学院 ソシオテクノサイエンス研究部 エコシステムデザイン部門 助手(旧エコシステム工学専攻)



1974年福岡市出身/1994~2001年3月 豊橋技術科学大学建設工学系(学部、修士、博士)/2003年9月まで豊橋技科大で日本学術振興会特別研究員PD、博士(工学)

### 徳島大学工学部が変わりました

私の所属名を見て「？」と思われた方もおられるかもしれません。2006年4月より、徳島大学工学部では、部局化に伴う大幅な組織変更を行いました。詳細は省きますが、(1)教員は全て大学院に所属し、(2)教員組織である研究部と学生が所属する教育部が新設されました。ですが、実質的には以前と同じ組織で動いています。

### 研究テーマ

私は2003年10月より、徳島大学近藤光男教授が率いる政策シミュレーション工学研究室に助手として所属しております。専門分野は都市計画で、GISや都市モデルを利用した、まちづくり支援ツールが研究テーマです。

学生時代は、豊橋技科大(大貝研究室)で、途上国における開発計画支援ツール、環境ゾーニングマップ作成支援エキスパートシステム、リモートセンシング、防災まちづくり支援ツールなどの研究を行っておりました。現在は、「防災」と「自然環境保全」を頭に置きながら、途上国における土地利用計画支援ツール、マルチエージェントシステムを用いた津波避難モデル、郊外部の市街化予測モデルに関する研究などを進めています。

### GISとまちづくり

初めてGISを知った約10年前、それは非常に高価なものでした。今では価格も下がり、種類も豊富になり、データ整備とともに、実務でも利活用が進んでいます。

CADやCGの進化により以前では考えられなかった建築が登場するようになりましたが、GISは都市計画をどのように変えていくのでしょうか。整備され続ける膨大な都市情報、より精緻化が進む都市モデルなど、道具やデータはどんどん進化しています。しかし、それによりまちが大きく変わったようには見えません。使いこなす技術者不足や、得られた情報が計画策定の中でどのように利用できるのかが明確でないといったことが原因かもしれません。

技術開発だけでなく、技術を使いこなす人材育成も大学の役割です。私も微力ではありますが、GISをはじめとするIT技術や都市モデルを使いこなしながら、計画と設計ができる人材を育ててゆきたいと考えております。

## 今後の活動計画

<第4回支部通常総会、第4回支部研究発表会>

5月27日(土)に、第4回支部通常総会を開催します。また、同日に開催します第4回支部研究発表会では、招待論文2編と、一般論文8編の研究発表を予定しています。是非、ご参加ください。

後日、案内状をお送りし、その後、支部研究発表会の資料も事前送付の予定です。

### 支部総会

日時：平成18(2006)年5月27日(土) 13:20~13:50

会場：広島国際大学国際教育センター

広島市中区鞆町1-5

### 研究発表会

日時：平成18(2006)年5月27日(土)

午前の部 10:00~12:00 招待論文2編

松田智仁氏(広島市環境局環境政策課ゼロエミッション推進担当課長)

テーマ：市民参加のまちづくりにおける課題と活動促進の手がかり

阿部宏史氏(岡山大学大学院環境学研究科教授)

テーマ：都心事業所の郊外移転と中心市街地再生の課題

午後の部 14:00~17:10 一般論文8編

戸田常一(広島大学大学院社会科学研究科)ほか

テーマ：広島市における公共交通と路面電車 路面電車と都市景観に関する研究(1)

千代章一郎(広島大学大学院工学研究科)ほか

テーマ：広島市における路面電車沿線の駐車場と公共景観の変容 路面電車と都市景観に関する研究(2)

匹田篤(広島大学地域連携センター)ほか

テーマ：広島市における路面電車の停留所と情報提供の変遷 - 路面電車と都市景観に関する研究(3) -

安野淳(株オオバ)ほか

テーマ：非線引き都市の開発の状況と土地利用のあり方について~山口県宇部市, 山口市を事例として~

渡辺公次郎(徳島大学)ほか

テーマ：津波防災まちづくり支援ツールの開発 その1・津波避難シミュレーションモデルの開発

横堀 肇(広島大学大学院)

テーマ：大学・地元企業のコラボレーションによる街の活性化

桑野将司(広島大学)ほか

テーマ：フロンティア分析モデルを用いた世帯の自動車利用効率性分析

塚本俊明(広島大学)

テーマ：中国四国地域の景観づくりと景観法 ~景観研究会・景観フォーラムを終えて~

会場：広島国際大学国際教育センター(支部総会と同じ会場)

17:30から懇親会を、会場近くのJALシティ広島(1Fレストラン、会費5,000円)で開催します。こちらの方へのご参加もお願いします。

### 特別講演会

日時：平成18年7月29日(土)

講演者：大谷英人氏(高知工科大学教授)

テーマ：「まちづくり」における参画・合意(仮)

会場：広島市内

## 編集後記

合併特例債による財政支援措置が今年3月31日をもって終了したことにより、平成の大合併も概ね収束したといえます(正確には;合併特例法(新法)は平成22年3月31日までの時限立法)。ふるさとの名前が変わった方もいらっしゃると思います。

市町村合併により、名称が変わり、区域が変わり、いよいよこれからまちがどう変わっていくのか、どう変えていくのか、平成の大合併第2幕の始まりです。

都市計画の分野では、市町村合併に伴う都市計画区域の統合・再編や、これに伴うマスタープランの改定など、新たなアクションが予想されます。しかし、大きくなった行政区域に合わせるばかりでは、相変わらず後追いの都市計画と揶揄されてしまいかねません。

この間、都市計画法も様々改定されました。目新しいものの1つとして「都市計画提案制度」(都市計画法21条の2)の登場があげられます。これは、土地所有者やNPO等が土地所有者の2/3以上の同意等の一定の条件を満たした場合、マスタープランを除くすべての都市計画について案を提案することができるという制度です。施行から既に3年(平成15年1月施行)経過しましたが、まだまだ活発に活用されるに至っていないようです。しかし、都市計画が確実に住民にとって身近な存在になってきたといえます。これに伴い、都市計画決定権者だけではなく、都市計画提案者を支援する専門家が求められます。また、都市計画決定権者には、より高次の説明責任が求められるようになります。

都市計画提案制度が普及することで、都市計画が新市町の有効なまちづくりの道具となることを期待しています。

話は変わりますが、先日、福岡市に行き、(いまさらながら)新たな発見をしてきました。都心の天神地区では再開発が進んでいますが、広島のような超高層ビルが見当たりません。これは、「全国で最も都心に近い福岡空港」の影響です。言うまでもありませんが、航空法による高度規制によるものです。景観を目的とした制限ではありませんが、「スカイラインがそろった眺望はなかなかよいものである」と改めて感じた次第です。(佐伯達郎)



福岡天神地区の眺望(14階建てビルの屋上から)

編集委員：佐伯達郎(編集長)、上之博文、佐藤俊雄、周藤浩司、隅田誠、福馬晶子、宮迫勇次、安永洋一郎、山下和也